

下早川田の修堤碑と東武鉄道佐野線鉄道遺跡

1, 下早川田町の修堤碑

下早川田町の矢場川堤防上には、明治 43 年の大水害で切れてしまった堤防を修理した記念に立てた碑があります。東武鉄道佐野線の線路わきにちょこんと建っていました。文字はすり減ってしまっていて読めません。



明治 43 年の大水害とは？

明治 43 年 (1910 年) 8 月 5 日ごろから続いた梅雨前線による雨に、11 日に日本列島に接近し房総半島をかすめ太平洋上へ抜けた台風と、さらに 14 日に沼津付近に上陸し甲府から群馬県西部を通過した台風が重なり、関東各地の多くの川の水があふれ、大洪水が起こりました。関東全体では死者 769 人、行方不明者 78 人、家屋全壊・流出約 5000 戸を数え、最も被害が大きかった群馬県では死者 283 人、行方不明 27 人、家屋全壊流出 1,249 戸に上りました。

堤防の破壊は渡良瀬川の他に利根川・谷田川・矢場川で発生しています。記録によると、傍示塚村では約 109 メートル、下早川田村では約 90 メートルに渡って堤防が切れたそうです。



自動車のそばに流れているのは矢場川、その向こう、橋がかかっている所に渡良瀬川が流れています。やばっ…

2. 鉄道遺跡の紹介

この場所の堤防が切れた、たった 4 年後、1914 年(大正 3 年)に東武鉄道佐野線が開通し、この場所に鉄橋がかけられました。その橋を支える柱はレンガで作られ、今でもこの写真の通り、残されています。



渡良瀬川をまたぐ鉄橋



今なお元気に橋を支えるレンガ

この鉄橋のすぐ下で電車が通るのを見るのはとてもはくりょくがあって楽しいですよ。さっきの修堤碑も線路のすぐそばにあるので、鉄道ファンにはたまらないでしょうね。でも、近づき過ぎないでね。危ないし、立ち入り禁止になると困るので。